

学力の基礎をきたえ どの子ども伸ばす研究会ニュース

NO. 345

学力研の広場

2023. 12. 9

学力研発行

学力研常任委員長

岸本 ひとみ

Mail: info21@gakuryoku.info

最近私の勤務する地域で、新しい教育の方向性が策定され、パンフレットが配布されました。その中に「子どもは有能な学び手であると理解する」という一節があります。なるほど、まずは子どもの学び手としての能力を信じるところから始めよう…ということだと受け止めました。そして、読みながら、斎藤喜博の『授業入門』の一節を思い出したのです。それはこのような文章でした。

「私は、子どもを信頼することは、どんなに信頼してもよいと思っている。教育でだいじなことは、子どもは、どの子どももよい子だと思ってやることだ。」(国土社『授業入門』29 ページ)

時代が移り変わり、教育を取り巻く環境が大きく変化しても、変わらずに大切であり続けるものがあります。一方で、短期間に様々な新しいものが、新たに学校教育に組み込まれてきています。

教育における不易なものや流行のもの…受け止め方は、もしかしたら十人十色なのかもしれません。しかし我々教師は、自らの教育実践に対して無責任であってはなりません。私たち一人ひとりの教師は、それをどう受け止め、消化し、目の前の子どもたちへと伝えていくべきなのでしょう。 (堀井)

CONTENTS

◇特集 私にとっての不易と流行◇

教育における不易と流行について	吉田雅直	2
変化していくことが不易の本質である	丸小野聡暢	4
学力づくり実践での不易と流行～遅れがちなたまのつまずきと向き合う～	図書啓展	5
学校にある自分にとっての不易と流行	根無信行	7
「不易」と「流行」について考えたこと	鈴木基久	9
「つながりを求める心」に込めるICT活用	堀井克也	11

◇連載◇

「どの子ども伸ばす」を本気で考える62「意欲格差」に負けない!公立小学校へ	岡本美穂	14
考える力をつけるための授業の組み立て方④語彙を増やすための授業の導入を	荒井賢一	18
社会科(歴史)授業力アップ講座①素材研究③	深澤英雄	21
学力研 第十七期 先生のための学校(オンライン) 第三回報告	李詩愛	24

局長・常任委員長だより

学力研カレンダー

教育における不易と流行について

大阪 吉田雅直

「不易」とは「いつまでも変化しない本質的なもの」であり、「流行」とは「時代に応じて変化していくもの」です。時代による変化は教育においても避けられないものですが、流行に流されないためには、教育における不易、すなわち本質をしっかりとらえている必要があります。本質がわかっているれば、一時的な流行に振り回されることなく、その流行の中の本質的な部分をとらえて、柔軟に対応することができるようになります。

それでは、教育における不易とは何でしょうか。答えはひとつではないと思います。私は、子どもたちがきらきら輝く実践の中に、そのヒントが隠されていると考えています。そこで、今回、私が学力研で学び、実践してきた取り組みを振り返ることで、教育における不易と流行について考えてみたいと思います。

① 快適な情動

学力研実践ですぐに効果があったのが、音読や「リズム漢字」、「つぶやき書き」や「いくつといくつ」など、みんなで声を合わせながら一斉に行う取り組みです。これらの実践に共通していることは、子どもたちが感じている「心地よさ」です。学力研では「快適な情動」と呼び、大切にしています。子どもたちが「心地よい」と感じることは理由があります。逆に「心地よくない」と感じるということは、そこに何か本質的なものが欠けていると言えます。

私は、「快適な情動」とは、目新しいがすぐに飽きられ、常に新しい刺激を求めたくなるような外的なものではなく、みんながいつしよに取り組む中で体の奥底から湧き上がってくるような内的なものであり、集団的かつ自治的なものであると考えています。学習活動において、子どもたちが真の

「心地よさ」を感じているのか、それとも表面的な「楽しさ」につられていただけなのか、ということは、教育における不易と流行を見分ける上で大切な視点なのではないでしょうか。

② 共同

それでは、何が子どもたちの心地よさを引き出しているのでしょうか。私は「共同」だと思っています。共同とは「みんながいつしよに同じことをする」ということです。能力も性質も家庭環境も異なる子どもたちが集まった学級という集団で、同じことをするのはなかなか大変ですが、学力研にはそれを可能にするすぐれた実践や教材がたくさんあります。

学習活動を共同ですることのよさは、まず時間と空間を共有することによる一体感や高揚感があるということです。そして、はじめはうまくできない子ども、できる子どもがお手本になってくれるので、安心して参加し、練習できます。さらに、毎日続けることで学習したことが共有財産となり、それが教室文化となつて、子どもたちが豊かにつながり始めるのです。

教育とは、個人と個人をつなぎ、個人と世界をつなぎ、人類の文化遺産を受け継いで発展させ、未来へとつなぐ、まさに共同を目指す営みであると言えます。その過程が個人的なものであっていいはずがありません。つまり、共同こそが教育の本質なのです。「個別最適化」の名の下、子どもたちをばらばらに分断する方向に向かう教育は、どんなに聞こえが良くても、自然淘汰されるべき一時的な「流行」に過ぎないと言わざるを得ません。

③ 飛躍体験

子どもたちは自らの成長を実感できたときにきらきらと輝き出します。それまで絶対に「できない」と思っていたことが「できた」という瞬間は、子どもたちにとって世界がひっくり返るような大きな喜びを伴う飛躍体験です。私は、百マス計算やなわとび、さかだちの実践を通して、子どもたちが飛躍する瞬間をたくさん見てきました。そして、それこそが子どもたちをきらきらと輝かせる教育の本質であり、不易である

と確信しています。
しかし、ただ課題を設定し「がんばれ」

と言うだけでは飛躍は生まれません。そこには子どもたちの成功体験を引き出す工夫と「できない」を科学する姿勢が必要なのです。百マス計算なら、「人との競争ではなく、昨日の自分に勝つ」という価値観を共有し、毎日タイムを記録することで伸びを実感できるようにする。なわとびなら、跳べない原因を分析し、教材化し、みんなで取り組む。さかだちなら、ゆりかごやブリッジなどの体幹トレーニングで基礎を鍛えつつ、準備運動として一年間取り組み続ける、など、「できない」を「できた！」に変えるための具体的な手立てと「どの子も伸ばす」という覚悟が必要なのです。私は、この飛躍体験とそれを可能にする「できない」を科学する心こそが教育の本質であり、不易であると考えます。

もちろん、教育にも変革が必要であり、時代の変化に合わせて変わっていくことは必然であると思います。しかし、次から次へと現場に下ろされてくる「新しい教育」を無批判に受け入れるのではなく、教育の本質と照らし合わせることで、それが目の前の子どもたちにとって、いま本当に必要

なものなのか、それとも、政治や経済界の思惑によるものなのか、ということに注意深く見分けなければいけません。そのためには教育に対する自分なりの「指標」や判断基準を持つている必要があります。私にとっては、それが「快適な情動」であり、「共同」であり「飛躍体験」なのです。

もちろん、不易こそがすべてで流行は否定すべきということではなく、不易の部分にも目の前の子どもたちに合わせてどんどん新しいものを取り入れていくべきだし、流行の中にも本質的なものを見出すことができれば積極的に取り入れていくべきだと思います。例えば、プログラミング教育も論理的思考や問題解決能力を育てるという点では国語や算数においても必要な力であると言えるし、タブレットも上手に使えば子どもたちを分断するのではなく、豊かにつなげるための道具として活用することができます。様々な価値観が溢れ、目まぐるしく変化する時代だからこそ、何があっても絶対に譲れないという「こだわり」を持ち続け、流行に流されることなく、本質を見極める力を持ち続けていきたいものです。

変化していくことが不易の本質である

丸小野 聡暢

不易と流行

「不易」とは、いくら世の中が変わっても変わらないもの、変わってはいけないものであり、「流行」とは世の中の変化とともに変わっていくものという意味です。それぞれの意味から、不易と流行はよく対立関係で捉えられがちですが、不易と流行は対立するものではなく、同一のものとして考える必要があります。本来は不易と流行ではなく不易流行です。不易流行とは、本質を追求していく中で、変わらないものを見つげるために、その都度、新しく変化を重ねているものを上手く取り入れていくことです。例えば、授業づくりや学級づくりは不変なものの一つです。その中に、全国の学校に導入されたタブレットを使うか使わないかを議論するのではなく、どのようにデジタルの良さを取り入れるかを考えることで教育活動を充実させることができます。

子どもたちは、これからの時代、デジタルと付き合っただけで生活していかないとはいけなからず。

やってみたい、わくわくする

最近SNSなどのツールもあり、ひと昔前に比べてたくさんの方が実践が溢れ、目にする機会が多くなりました。実際に以前の職場では、翌日の授業準備をSNSで調べ、準備をしている先生を見かけたことがあります。以前の私も講演会で聞いたことや本を読んだことをすぐに実践していました。深く考えずに追実践をしていたので、中身がなく継ぎ接ぎだらけのパッチワークのような状態でした。今、私が実践をする上で大切にしていることは、自分のクラスの子どもたちに即しているのか、子どもを伸ばせるのかという視点です。それ以上にその実践を「やってみたい」「わくわくする」という気持ちに自分自身がなっているかと

いうことを大切にしています。情報が溢れている時代だからこそ、実践を取り入れる際には取捨選択をし、クラスの実態に合わせて取り入れる力が求められます。そのため、しっかりと自分の軸を形成しなければいけません。

良いものは残り続ける

良い実践は、淘汰されても残っていくものです。どんな実践でも、本質を追求していけば、不易なものとして自分の中に残り、長続きするものです。それこそ、流行的なものは長続きしません。私は、現在の勤務校で研究をしていく中で、授業づくりの本質が自分の中で身に付いてきました。当たり前ですが、どの教科でも単元で身に付ける資質・能力を明確にし、子どもの実態に合わせた手立てを打つことです。その際、子どもたちの意欲を高めるための工夫も必要です。最後になりますが、本質を追求していくために、流行に敏感であることが求められるのではないのでしょうか。そのためにも、学び続けることが大切です。これからも一緒に学び続けていきたいと思います。

学力づくり実践での不易と流行く遅れがちな子のつまずきと向き合う

図書 啓展 (ずしょ ひろのぶ) 大阪みなみ学力研

教育の不易の一つは、人格の完成をめざして確かな学力を身につけさせることです。学力づくり実践でも不易と流行は見られます。

3年生を担当したとき、栄子(仮名)がいました。栄子は学習面で遅れがちでした。幼い時から、他の子ができることもできないことが多かったそうです。私がまずやったことは、
 ①授業で、栄子をはじめ遅れがちな子が発表したり、黒板に書いたりする機会を増やす。
 ②学級ぐるみで、また可能な限り学年で、学力の基礎である読み書き計算を重視した指導をする。

③他との比較でなく、その子の伸びを評価する。時にはやり切らせる粘り強さ、根気も発揮する。

④宿題は「(一)音読2ページを3回。(二)漢字練習をていねいに。(三)50マスかけ算」といった3点セットの学力の基礎充実型で、栄子も自力でできるものに絞った。 などでです。

ちよつとでも難しい問題はすべて授業中に扱いました。それにより、「宿題する子」↑↓「しない子」と、子どもを分断せずにすみしました。居残り勉強もできるだけ避けました。集団の中で学んでこそ学習意欲も湧くでしょう。

50マスかけ算(つまずきの多い4,6,7,8,9の段だけ練習をクラスみんなで取り組む熱気の中で個別指導もして、栄子もかけ算九九をしつかりとマスターしました。(さかのぼり学習) 「かけ算」ができれば「余りのないわり算」もできます。栄子もわり算のテストで何と95点をとってとっても嬉しそうでした。いつもできる訳ではありませんが、

⑤「遅れがちな子もできる方法」を授業の核にすると、効果があります。例えば、下にあげるように「補助数字(赤ちゃん数字)を薄く小さく書く。」「この方法で学習したら、栄子もできました。(後に補助数字は書かなくてもできるようになりました。)ユニバーサルデザインにつながる取り組みです。一学期末、栄子の算

① $\begin{array}{r} 36 \\ \times 59 \\ \hline 4 \end{array}$ 小さく「5」から書く。	② $\begin{array}{r} 36 \\ 27 \\ \times 59 \\ \hline 4 \end{array}$ 「27」と小さく書く。	③ $\begin{array}{r} 36 \\ 27 \\ \times 59 \\ \hline 324 \end{array}$
--	--	--

数の平均点は71.3点にもなり、本人も母親も喜んでいました。しかしながら、子どもは一直線に進むものではないありません。難しい計算が待っていました。「2桁の数をわるわり算」です。が難しいのです。これは商が見つけにくく、余りを出すときり下がりがあるからです。(3のような問題はちょうど100問あります。基本わり算(型))

栄子はここでつまずきました。あの手、この手でやってみましたができずじまいでした。彼女は集中力も自信もなくし以前はできていたこともできなくなるという悪循環です。
 ⑥保護者と思いを共有しあって そんなとき、母親から一文を頂きました。

朝、栄子が「しんどい！」と言いついで、「何か学校に行きたくないことがあるの?」と聞くと、泣きながら、「わり算のプリントするの、イヤ」と言いついで泣くのです。

ここまで読み、私はショックで頭をガーンと殴られた気になりました。続きを読みます。

1・2年のときなら分からなくても0点とってもあまり気にしない子だったのに、3年になって勉強できるようになってきて、いい点とることの喜びを知ったのです。だから、わからないことを気にし始めて、私はいいことだと思おうのですが、先生はどう思いますか?

何とすばらしいとらえ方をされているのだろう、とびつくりしました。続きます。

そしてすみませんが、少し英子にわかるようにわり算を教えてほしいのですが、先生にめいわくかけるようですが、どうかよろしく願います。

栄子や母親に申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。すぐに彼女への指導経過、すなわちどんな問題を間違えるか、それはなぜか、どのようにしていけばいいかを書いて、電話でお話しました。

① $31 \div 4$ 4の段の九九を言っていく。 → ② $31 \div 4$ 4×8
 31を初めてこえる九九を横に書き出す

③ $31 \div 4$ ~~4×8~~ → ④ $31 \div 4 = 7$ ~~4×8~~
 線を入れて消す 8より小さい数7を商とする

⑤ $31 \div 4 = 7$ 余り3 ~~4×8~~

$$\begin{array}{r} -28 \\ \hline 3 \end{array}$$

出させるということですが。これで視覚化され

るわけです。大事な事を視覚化することで、ステップが小さくなり、乗り越えることができました。遅れがちな子は、数字や計算の念頭操作ができにくく、時間がかかりました。

⑦「補助計算を書き、視覚化するとよい」
 ということがわかりました。栄子の指導を通じて認識面でもう一つわかったことがあります、他の機会にします。

⑧「学力の基礎、つくりで友達づくりが進む」
 栄子を取り巻く友だち集団もできました。これが一番大きいことだと思います。友だち輪に入ることは発達の機会に恵まれることであり、生きる喜びを得ることです。

続きます。2学期の栄子の算数の平均点は85点になりました。

教育の流行とは「社会の変化と共に変えていく必要があるもの」です。この実践当時、「学校ぐるみの学力づくり」の視点は私にはありませんでした。学校として1年生から基礎を積みあげてこそ、もっとどの子も伸びていくのです。山口小学校や新林小学校以後、「ゆとり教育批判」の後押しもあって、多くの学校で学力づくりが採り入れられたのです。

学校にある自分にとっての不易と流行

大阪 根無 信行

一、学校に次々やってくる「流行」

教員に採用された頃

パソコン教育

総合的な学習の時間

2校目に転動した頃

外国語教育

学力調査という名もとの学力テスト

道徳「科」教育

時教カウント

授業スタンダード

現任教に転動した頃

S T F (大阪) 主体的で対話的な深い学び

U D (ユニバーサルデザイン)

指導要領は外国語のままの実質の英語

プログラミング教育

I C Tを使うための授業づくり

2年に1度のペースで、新しい流行を学

校は取り入れてきました。当然、研究授業な

ども、そのテーマを取り込むようにと、影響

を受けます。2年に1度ですので、2年目は

次の新しい流行の試行実施の時期に当たり、

「のりしろ」のように重なっています。毎年目指しているものが何なのか、二兎追う形で進められ、校務分掌ができ、取り組みのふりかえりや反省はないまま、次の流行を迎えてそこに注力されていくというかたちでした。これらをなぜ「流行」と表現しているかという点、今までに無かった新しいもの、ということを中心にはしていません。総合的な学習の時間も、設置される以前から、過去の先生方は、教科を横断した様々な取り組みをされていきましたし、主体的で対話的な深い学びは、授業の中で常に追求されていきました。どの子にも分かる、という意味では、U Dと名付けられる前に、様々な形で、目の前の子どもたちにあった手立てを考えられておられました。ですので、流行の中身も大切な役割を持つているとは思いますが、流行を否定する立場ではありません。今回書かせていただく不易と流行という流行は、一時的に現れ、それまでの取り組みが減ってしまうくらい広く広がり、そして検証無

く姿を消していく、そういう印象が強いものをイメージして並べたものです。

二、流行によって減ってしまったもの

私が採用された頃、パソコン教育が流行していました。学校に40台のパソコンをさせる「PCルーム」が作られました。そこで改装されたのが「児童会室」でした。児童会活動が制限されるため、放課後の児童会活動は図工室で行われることになりました。総合的な学習の時間を設定したことで減った時間は、社会や理科、図工や音楽の時間で、週当たり2.5や1.5時間扱いにするような、いびつな時間割となりました。ご存じのように外国語教育の流行により、後に総合的な学習の時間が減ります。『学力テスト対策』の流行で、大阪では対策問題を配布され、テスト前に取り組むよう指示が出て、今では5年生から「すくすくテスト」という対策問題を6年生の学力調査の日と同日、1日かけて実施するという行事ができ、さらに「すくすくテスト対策」の授業を行うようなことも流行しつつあります。ユニバーサルデザインの教室づくりが流行し、学級目標や自画像、歴史年表の掲示が教室から消えました。コロナ禍前、プログラミング教育

が流行し始めましたが、今はプログラミングをするより、プログラミングされたものを授業中にICT機器でいかに使うか、を指す形に変わってきています。特別の教科道徳に、英語。プログラミングが時間割に入るスペースが見つからないからです。流行は、その良さをみんなが理解し、これまで培われてきた意義のある教育活動と併走できるか、取って代わっても大丈夫であると言えるくらい受け入れられなければ、何事もなかったかのように去ってしまいます。

三、不易と流行

20年ほどの教員生活の中で、10個以上目玉商品が生み出され、提供しつづければ、目の前の子どもたちの現状から出発した教育活動ではなく、店じまいセールの後、新装開店を繰り返すような、これが目新しくウケそうだから流行らせようという、「これをさせたいのはだれ?」「子どもたちにどんな力をつけさせたいの?」と疑問感じる教育活動に思えてしまいます。2年周期のうち1年は次の商品への移行期で、どちらに重点が置かれているかわからない、と先ほど書いたのは、コロコロかわる、初夏には冬物の流行りが話題になるような、ま

さに流行というものだと言えます。

一方、音読、書き取り、計算は、読み書きそろばんと言われた時代から、不易に行われている教育活動だと思っています。近現代で、これらを学校で学んで来た子どもたちが大人となり、今の日本の社会を支えてくれています。学校はいつまでも同じ事をやっている、のではなく、子どもたちに力をつけられる手立てだから、今年もやる、ということが続いているのだと思います。

流行が去れば、追わない勇気も必要。(いつときの流行に手を出さない見極める力も大事。)流行っているからといって、その地域、その学年の集団に合った、またその集団に必要な教育だとは限らないのではないのでしょうか。

新しいものを取り入れたくなる心情は分かれます。もし、斬新なアイデアで顧客の目を惹くことができれば、商品の売り上げは上がりますし、興味が学習の意欲に繋がることも十分効果的です。現場でも、「遠足の行き先、去年の〇年生は〇〇公園に行ったから、今年も追加で〇〇山にも足を伸ばして体験させてあげたい」という意見や、「研究授業で、今回はICT機器を子どもが使

用する活動を組み込んで、いきいき活動して欲しい」、などもよく聞きく会話です。でも、教師としては毎年変わらないこれまでの活動でも、今受け持っている子どもたちは、初めての経験であるはずで、遠足としての〇〇公園はこの集団で初めて行くところであるし、詰め込んで滞在時間が圧迫されて楽しいなら、どちらが良いともいえません。ICT機器を使わない授業で子どもたちの学力を伸ばせなかったという反省が、上がっていたわけでもありません。

前任校で勤務している時、100マス計算が「流行」しました。当時、学力研で取り組み方を教えていただき、学校で基礎計算の習熟に取り組みました。それから、10年以上経ちますが、その取り組みは、今でも続いています。始まりは「流行」であったように見えますが、それ以前から学力研の先生方が紹介くださる中で、目の前の子どもたちのためにと、現場に広まっていった取り組みであり、そして去らずに残っていくものであったから、こういう実践こそが、「不易」なのだと思います。流行も大切ですが、学校では、不易であって来た基礎の上に、初めて流行が生きているのだと思います。

「不易」と「流行」について考えたこと

鈴木基久（静岡県）

「私にとっての不易と流行」というテーマをいただいたのだが、私は「不易と流行」についてこれまであまり意識してこなかった。そこで、「不易と流行」について改めて考えたことをまとめてみた。

まずは、「流行」について考えた。「流行」と言われると、様々なキーワードが浮かんでくる。「個別最適な学び」「協働的な学び」「主体的・対話的で深い学び」「令和の日本型学校教育」などである。そういえば「アクティブラーニング」という言葉もあったが、それは使われなくなりその後に表示されたワードに取って代わられている。

新しいワードが出てくるたびに、それはどんな意味で何を目指しているのが話題となり、新しいワード

が躍った書籍がたくさん売り出されたり、研修会が行われたりする。最近、新しいワードが次々に出され、それらについて学ぼうとすればするほど、新しいワードに振り回されているように感じている人も多いのではないかと思う。

なぜ、次々に新しいワードが出されるのだろうか。教育行政に携わっている側から考えると分かりやすい。例えば、「指導要領が新しくなる」ときこれからの学校や授業の目指すものはこれですよ。」と示すには、新しいキーワードが必要だからである。新しいワードは、これまで使われてこなかったワードだから多くの人は知らないわけで、みんながそれはどんな意味で何を指すのかを知りたいと思うきっかけになるのである。

次々に出される新しいワードに対する現場教職員の態度は、大きく2種類に分かれるだろう。

一つ目は、新しいワードについて理解しようと思い、書籍を購入して読んだり、研究会に参加したりする熱心で真面目な人たち。

二つ目は、次々に新しいことを言われても、日々の業務に追われていて、それらを学ぶための時間も気力もないという人たち。

日々の忙しさから、新しいことを言われても、そんなことを学ぶ時間がないという人たちの気持ちも、私は十分に理解できる。今の学校にはあきらめたくなくなるほどに次々と新しいことが押し寄せているからである。でも、学ぶことをあきらめたままではよいとは思わない。なぜなら、新しい情報を入れないで教員の仕事を続けるのは、時代や子どもが変化しているのにずっと同じやり方を続けることになり、とても危険だからだ。この状態が続くことは、教員にも子

どもにも学校にも好ましくない。

一方で新しいことについて学ぶ熱心で真面目な人にも、注意が必要だと思っっている。それは、新しいワードを鵜呑みにしてはいないかということだ。キーワードには、簡単に説明できない理論や構想を一言で代替できる便利さがある。だからキーワードを使っっていれば、それらしく聞こえるし、分かったような気になるのである。

本当に大切なのは、簡単に説明できない理論や構想を、自分のこれまでの経験や実践に照らし合わせて取り入れるかどうかを考えることだ。鵜呑みではなく、しっかりと噛み砕いて自分の考えとして吸収できるかが重要だ。新しい考えの中でも、賛同できるものは取り入れ、疑問を感じるところはとりあえず保留としておけばよいと思う。学び続けていければ、保留としていたことの答えが見つかったり、複数のことが繋がって理解できたりすることがあると思う。

次に「不易」について考えた。「不易」というのは、「人間とは本質的にこういうものだ。」というように時代によって変わらないものだと思う。

最近、『「発達障害」と間違われる子どもたち』成田奈緒子著を読んだ。発達障害とされる子どもの数が13年間で10倍になっているが、その中には、医学的には診断がつかないのに発達障害のような行動が見られる「発達障害もどき」の子どもが増えているという。そして「発達障害もどき」を改善するには「子どもを立派な原始人にする」と目指すべきとあった。具体的には「早寝、早起き、朝ごはん」のような生活の改善と親子のコミュニケーションが示されていた。

本のタイトルに惹かれて読んだ本であったが、結局は「早寝、早起き、朝ごはん」という20年くらい前に流行したことがやはり大切だったのを再確認することとなった。つまり、「流行」していたが最近はまだ

われなくなった「早寝、早起き、朝ごはん」は「不易」なことだったんだと今の私は思っっている。

発達障害に対する支援は年々充実しているにも関わらず、個別の支援が必要な児童がそれ以上に多くなり、学校運営の課題となっている学校現場は多い。だからこそ、タブレット教育などではなく「早寝、早起き、朝ごはん」という人間にとって大切なことにもう一度立ち返る必要があると思う。家庭生活に立ち入らないということと20年前の「流行」は終わってしまったのかもしれないが、ここはあえて家庭との連携を図るべきだと思う。

教育の話題は、何かと二項対立で捉えがちである。「不易」と「流行」を二項対立でとらえるのではなく、本質的な価値はどこにあるのかという視点で様々なことを捉えていくことが一番大切なのではないかと、私は思っっている。

「つながりを求める心」に応えるICT活用

春日井学力研 堀井 克也

不易な欲求…つながりを求める

少し前のことですが、書店でエーリッヒ・フロムの『愛するということ』を見つけたので読んでみることにしました。久保先生の『「愛すること」を教える授業づくり・学級づくり・学級崩壊や指導困難に陥らないために』（教育技術MOOK）が、『愛するということ』の理論に基づいて書かれた本だということを知っていたためです。

読み始めて、第二章「愛の理論」の冒頭の、次のような記述に心を惹かれました。

孤立こそがあらゆる不安の源である。（中略）人間のもっとも強い欲求は、孤立を克服し、孤独の牢獄から抜け出したいという欲求である。

新年度、新しいクラスで子どもたちはまず仲の良い子を見つけて安心します。仲良くしていた子がみんな違うクラスになってしまった子の表情は大抵暗いのです。個人懇談会で保護者の皆さんがよく聞きたがるのは、我が子の学力と並んで「クラスに友達はあるか」です。それくらい、「孤立」は辛いことだということなのです。つながりを求める心…それは人間にとって根源的な欲求、つまり不易な欲求と言えるでしょう。

だからこそ、学級づくりの視点の一つとして、ク

ラスの子ども同士がよりよくつながることができるように、教師が促していくことが大切になります。

その為の手段として、愛されることを求めるのではなく愛すること…つまり相手のために労働することが必要なのだと、久保先生はご著書の中で喝破されています。先生が良く言われる「たよりになるのはおとなりさん」とは、隣の席の子のために自分ができることをする…労働することを通して、よりよくつながることができるようになっていくことを指しているのだと私は理解しています。

宿題と家庭学習力格差

少し話は変わりますが、今年度担当している五年生では、年度初めに話し合って、一律に同じ宿題を課さず自主学習に取り組ませるようになりました。

校内研究のテーマの一つが「子どもが自分の学びたいことを見つける」というものになったことと関連して決めたことだったのですが、そうなると家庭学習の習慣がしっかり身についていない子は何もしなくなってしまうのではないか…ということを心配していました。

実際に始めてみると、具体的にやることを指示されないといけないという子がたくさんいました。サボっているというよりは、これまで宿題があるの

が当たり前だったせいで、自分で何をするのかを考えて決めるとい力が育っていないことが原因だと考えられました。決められないので判断保留の状態になり、結果として何もしないことになってしまっていたのです。一方で、元々家庭学習の習慣が身につけており、学習内容を自分で決めることができる子どもは、ちゃんと自分で考えてその日の学習内容を決め、遂行していました。

私は、自主学習を「補充（足りていないところを補う学習）」「発展（学校で学習した内容から一歩進んだ学習）」「自学（自分の興味があることについて調べたり深めたりする学習）」の三つに分類し、まずは補充的な学習（主に漢字や計算）に取り組むことを薦めました。朝の会で行っているお隣さんとのペアトークでは「昨日何を学習したか」を話題とし、帰りの会のペアトークでは「帰ったら何を学習するか」を話題とすることで、どの子も自主学習への意識を高められるようにしていました。

その結果、一学期の半ばには、多くの子どもが、宿題が無くても家庭学習に取り組めるようになっていきました。

学習した内容を報告し合おう

そんなある日のことでした。クラス会議の話題の一つとして「どうしても家に帰るとだらけてしまつて、学習を後回しにしようんだけど、みんなはどう？」と発言した子がいました。すると、「わかるわかる！」という反応があちこちから上がったのです。学校にいる間は周りに仲間がいてくれるからや

る気も出やすいけれど、家に帰ればそうはいきません。そこで、下校後はタブレットを活用して友達とつながることで、「みんなも頑張っているんだな、自分もがんばろう」と意欲的に学習に取り組み始めるようにしようということになりました。

そこでロイノートの共有ノートを使おうとしたのですが、夜遅くまで個別でやり取りをする子どもがいて、たった一日でカードが天の川のごとく広がったためすぐに止めました。その後は「学習報告」という提出箱を作って回答を共有する設定にしておく、というやり方を採用しています。

タブレットを介してつながった結果

子どもたちの間に起きたこと

元々は家庭学習に対する意欲を高めるという目的で始めたことであり、今でも主たる目的は変わりません。しかし、それ以外にも様々な内容をそこへ提出する子どもたちが現れました。例えば：

- ・ 学習内容を報告した後、「みんなもがんばってね」と励ましのメッセージを書く
- ・ 習字や絵の具の用意を忘れないようにと呼び掛ける
- ・ 自分の好きなことを紹介する(イラストを載せる、ペットの写真を載せるなど)

- ・ クラス全体のタイピング熱を高めようと毎日タイピングの結果を紹介する
- ・ 算数や歴史の問題を作って解き合う
- ・ 分からなくて困っていることを質問する
- ・ 他の子に向けてメッセージを送る
- ・ 係活動の一環でアンケートを送る

このように、帰宅後もつながる手段を得たことで、子どもたちは自分の個性を發揮しながらやり取りするようになりました。あくまでも参加するかは各自にお任せですが、徐々に顔を見せる子は増えました。興味深いのが、頼まれたわけでもないのにみんなの為になることを発信しようという動きが多いことです。その対象がクラス全体のことであれば、学習を苦手としている子のこともありますし、興味関心を共有している仲間へ宛てたようなものもあります。これは、最初に書いた「愛すること」の実践なのではないかと感じています。

この、タブレットを使った学習報告という取り組みをしばらく続けていると、面白いことが起き始めました。学校生活を送っている中ではあまり関わりの無かった子ども同士が、学習報告に提出した内容をきっかけにして共通の話題を見つけ、教室でも親しく会話するようになる…ということがたくさんあったのです。それは、男女間でも起きました。

例えばある子がタイピングに熱意を燃やし、誰にも言われていないのに自分のタイピングの記録をスクリーンショットして毎日のように報告し始めると、違う子が「実は自分も最近タイピングにはまってるんだ」と言って同じように報告するようになったのです。百マス計算で「友達とは競い合わず、昨日の自分に克つこと」を大切にしてきた子どもたちです。お互いの成長を喜んだり励まし合ったりする微笑ましい姿が見られました。

学級委員だったある子は、次の日以降の持ち物の

確認や、みんなが忘れがちな日記に早く取り組むように呼び掛けていました。すると、それを読んで補足をしたり、「助かったよ、ありがとう」とお礼を言う子が現れたりしました。「〇〇さんはいつもみんなのことを気に掛けてくれていて、優しい」という、これまで気付いていなかった一面がみんなに知られるようになったのです。

不易な欲求の新しい満たし方

私はこの記事の冒頭で、孤立を恐れ、つながりを求めるのは人間の不易な欲求であると書きました。

上述の、タブレットを活用した帰宅後の子ども同士のやり取りは、一人一台端末が整備される前であれば実現できなかったことです。教育における流行の最たるものの一つ、タブレットを使って、不易な欲求を満たしていく…面白いことが起きているなと思います。

ちなみに、半年近く続けていく中で、問題も起きました。夜遅くまでタブレットを開いていて叱られた子や、友達の興味を引こうと変な画像を載せる子がいきましたが、それはその都度みんなに関わる問題として話し合っ解決してきました。実際に起きたことを教材として学習する、生きた情報モラル教育ができたように感じています。

クラスの子ども同士がよりよくつながれるように促していくのが教師の仕事の一つ。だからこそ、不易なものも流行のものも、活用できる手段は何でも使うべく、これからも色々試していこうと考えています。

「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

■和の文化を受けつぐ

～和菓子をさぐる～

単元の計画（全10時間）

- 1 学習の見通しを立てる。
 - ・ 題名や写真をもとに、和の文化について考える。
- 2 教材文を通読して、初発の感想を交流し、学習の計画を立てる。
- 3 4 5 6 筆者の考えを読み取る。
 - ・ 文章全体を序論・本論・結論に分け、さらに本論部分を3つに分け、それぞれのまとまりごとに書かれていることを、資料と関連付けながら読み取り整理する。
- 7 要旨をまとめて交流する。
 - ・ 文章を読んだ自分の考えや感想、調べてみたいことを整理する。
- 8 9 和菓子以外の和の文化について調べて、リーフレットにまとめ、友達と交流する。
- 10 学習後の自分の考えや感想、もつと

調べてみたいことなどを交流する。

■教材の特徴

本教材は、和菓子という伝統的な文化に関するものの中でも子どもたちがイメージしやすい題材であり、序論・本論・結論の構成が明確な文章となっています。また、和菓子を「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人々」という三つの観点に分けて説明するという構成は、子どもたちにもわかりやすく、8、9時間目のほかの文化について調べたことを報告する活動にもつなげやすくなっています。

学習指導要領の指導事項【C読むこと

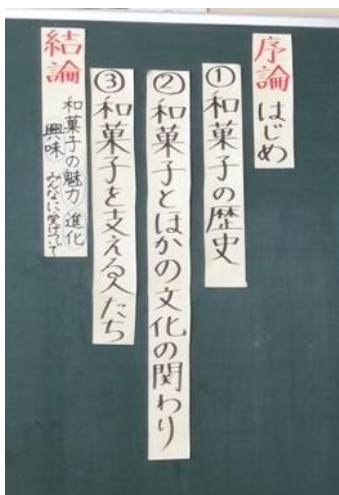
(1)ウ「目的に応じて、文章や図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたら、論の進め方について考えたりすること。」に重点を置いて指導しました。そこで単元のゴールに、複数の資料や本から自分が興味をもった他の和の文化のものを

調べて、それを伝え合う言語活動を設定しました。

文章構成としては、

- ①段落………〈はじめ〉
- ②～⑤段落………〈なか〉
- ⑥段落………〈おわり〉

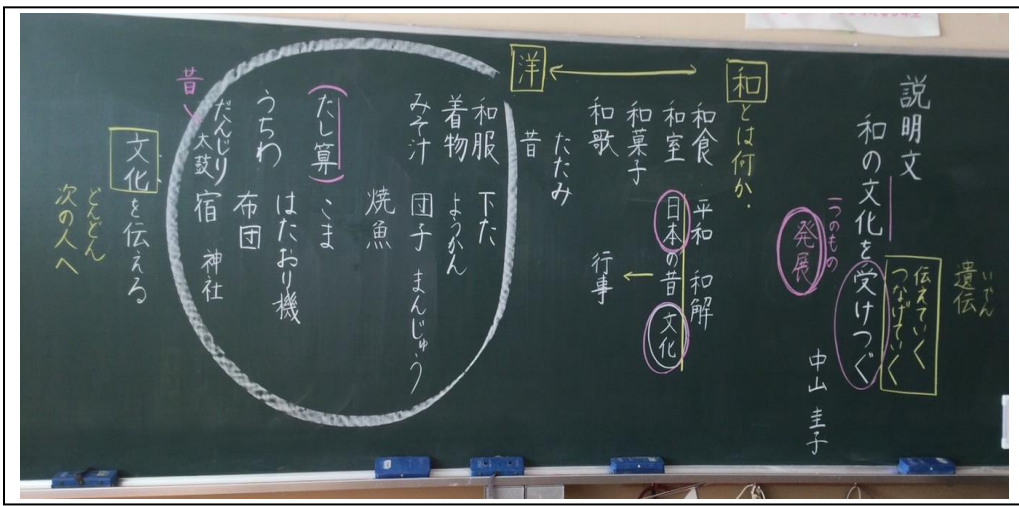
と分けて考えました。そこで、板書では短冊にしたものを毎回子どもたちと確認して、貼って確認しました。あらずじ理解にもなるうえ、子どもたちが「序論・本論・結論」を意識できるようにしています。



1時間目

この時間は、題名や写真をもとに、和の文化について考えることをめざしています。まず、本文も見せずに「和の文化を受けつぐ」と板書しました。そこから、「和」

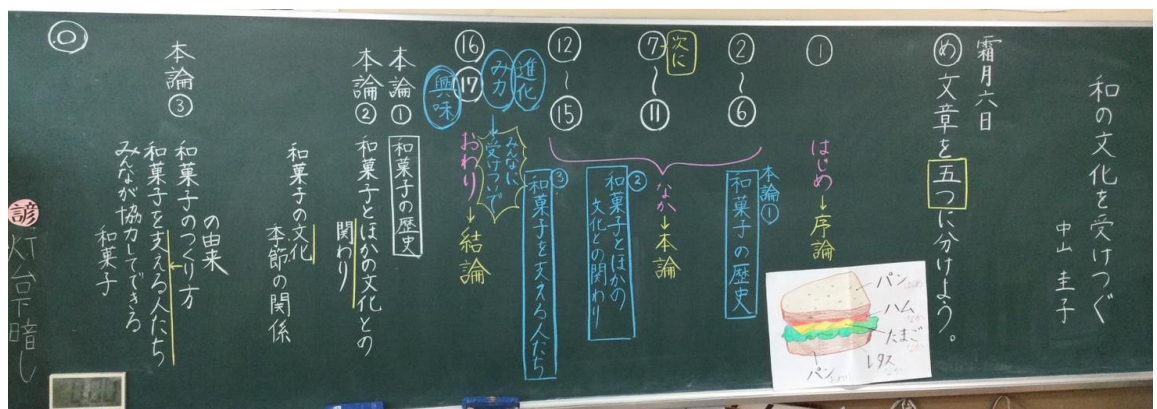
とは何かについて考え交流し合いました。その後、一人ひとり「和」という言葉から



思い浮かんだことを聞いていきます。それは○で囲んだ部分に書いています。自由には話し合いながら、「文化を受けつぐ」ことについて追求していきましょう。受けつぐという言葉で辞書で調べたり考えながら、「伝えていく」「つなげていく」「遺伝」と言い換えて表現する姿も見られました。このように「題名」から考えを広げ、ふくらませながら本単元への興味・関心を引き出しています。

3時間目

「文書を五つに分けよう」というめあてです。今までに学習した「序論・本論・結論」の文章構成についてまとめていきます。文章全体を序論・本論・結論に分け、さらに本論部分を3つに分け、それぞれのまとまりごとに書かれていることを資料と関連付けながら読み取り、整理することを求めています。そのために、まずは本論1、2、3にそれぞれ題名をつけることで、「あらすじ」把握と文章構成がどの子どもも理解できることをめざしています。



影 灯台下暗し

和の文化を受けつぐ
 説明文 ー和菓子とさぐる
 伝える
 中山圭子
 内容 詩言 意見
 本論 ③ について考えよう
 和菓子と伝える人たち
 12/15
 ③ 和菓子と伝える人たち
 知ってほしい
 職人 感性 木型
 季節 感性
 成り立つ
 道具や材料をつくる人
 食べる人 買う人
 それを味わい楽しむ多くの人に支えられる
 現在に受けつぐ
 日本文化
 唐菓子
 「受けつぐ」
 ① 和菓子の歴史
 ② 和菓子とはがの文化の間わり
 ③ 支える人たち
 長い 伝える受けつぐ 人たち
 食へる
 食へる
 ①7 新論 和菓子の歴史の進化
 興味 味 文化 進化
 ◎ 自分たちのために
 中山圭子さんの考え

7時間目
 最後は「挿絵について」考えました。結論に挿絵を入れるとしたらどんな挿絵が必要になるのかを考えました。そこから筆者の主張について考える姿も見られました。

15分(1)毎月、
<https://kyoiku.sho.jp/special/137931/11/>
 見やすく理解しやすい「単元別 板書の技術」京都女子大学附属小学校特命副校長 吉永幸司監修で特集していただいています。

霜月十七日
 和の文化を受けつぐ
 和菓子とさぐる
 中山圭子
 必要情報を見れば筆者の説明の仕方について考えよう
 ◎ 結論について考えよう
 16 17 まどめ
 どんな差し絵が必要か
 17 代表 夢 創意
 和菓子にかざらず 比へやすい ふうそく など
 ほんも
 和の文化の二つ
 受けつぐ 昔→今
 日本の文化を受けついでいくことができます。
 筆者 共感
 伝えたいこと
 和の文化の進化 15回 言葉を

考える力をつけるための授業の組み立て方④

大阪教育サークルはやし 荒井 賢一

語彙を増やすための授業の導入を

「考える力」をつけるためには、土台となる知識（語彙）を増やす必要がある。

では、その語彙を増やすには、どうしたらいいだろうか。

【板書】□い

「□」に漢字を入れて、言葉を作ります。

例えば、何がありますか。」

・固い。

「一分間で書けるだけ書いてみましょう。

用意、始め。」

ある授業で、導入である。

子どもたちの語彙を増やさせるには、まずは知っている語彙を出させる必要がある。「□い」や「□く」のように、条件を与え、時間にも限定を加えると、子どもたちは意欲的に取り組む。

そして、一分後に書けた数を問う。自分の現在の語彙力を意識させるためだ。そして、多い子に板書させ、

「さらに三個足せる人？」

と問い、クラス全体でいくつの語彙を見つめられるかを明らかにしていく。

（一分後の結果公表の後に思いつく語彙も発表してもよい。）

ある講座で、参加者の先生方に、上記の問いを出したところ、お個もの「□い」の語彙が出された。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|------|
| ① 固い | ② 赤い | ③ 青い | ④ 遠い | ⑤ 近い |
| ⑥ 短い | ⑦ 長い | ⑧ 早い | ⑨ 速い | ⑩ 遅い |
| ⑪ 寒い | ⑫ 暑い | ⑬ 熱い | ⑭ 白い | ⑮ 黒い |
| ⑯ 怖い | ⑰ 悪い | ⑱ 良い | ⑲ 軽い | ⑳ 重い |
| 21 古い | 22 儂い | 23 苦い | 24 痛い | |
| 25 酷い | 26 細い | 27 高い | 28 低い | |
| 29 丸い | 30 辛い | 31 嫌い | 32 賢い | |
| 33 尊い | 34 甘い | 35 広い | 36 重い | |
| 37 眠い | 38 凄い | 39 厚い | 40 薄い | |

この後、40個の語彙を分類してもらった。この作業は抽象化の力をつけるのに必要だからだ。

例えば、「寒い」と「熱い」を「気候」、

「高い」と「低い」で「高さ」、「速い」と「遅い」で「スピード」、「短い」と「長い」で「長さ」というように分類する。

授業の導入で、たくさん語彙を列挙させ、クラス全員で見つけた語彙たちを分類し抽象化させていく。

そのことが、子どもたちの語彙を増やし、抽象の力を高め、やがて、思考力を高めることへとつながっていくことだろう。

思考の強力な武器を手に入れるために
今井むつみ『ことばの発達の謎を解く』
(2013.1 筑摩書房) より。

ことばのストック（つまり語彙）がほとんどない小さい赤ちゃんは、ことばによって新しいことばの意味を学習することはできません。でも、ことばのストックがある程度できてくれば、すでに知っていることばを使って新しいことばを学習していくことができるのです。すでに学んだことばによって未だ知らなかったことばをどんどん新たに学習し、新しい概念を身につけていくことができる。ことばを学習するということとは、思考の強力な武器を手に入れることにほかなりません。

思考の強力な武器、すなわち考える力で

ある。考える力（思考力）を高めるためには、語彙のストックを増やさせることが、やはり大切なのである。

授業プラン 「赤い黒い白い□い」

（導入・「□い」の言葉を出させ、分類。）

「あなたは、どんな色が好きですか。」

列指名後、それ以外の好きな色を発表させる。

「なぜ、その色が好きなのですか。」

列指名後、言いたい子数人に発表させる。

【板書】赤い

「赤いものには、どんなものがありますか。」

一分間で書けるだけ書かせてから、列指名後

それ以外のものを発表させる。

教師は、リングー黒い血液↓赤い血液↓たき火

を画像提示。

黒い血液を提示した時、「これが何か分かりま

すか。」と聞いてから、

「血液です。酸素が多いとこうなります。」

と言って、赤い血液を提示する。

「赤いリングーが、赤く見えるのは、なぜですか。」

発表後、太陽から出る可視光線が、リングーに当

たり、リングーは赤以外の色を吸収し、赤だけを反

射するので、赤く見えることを説明する。

「電気のない時代、夜にたき火をたくと、周りは

どうなりますか。」

・明るくなる。

【板書】明るいー赤い

「明るいから赤いという言葉が出来たと言われて

います。では、明るいの反対の暗いから出来

た色の言葉は何でしょうか。」

・黒い。

【板書】暗いー黒い

「黒いものには、どんなものがありますか。」

赤と同じように、一分後列指名とそれ以外の発

表。（以下の色も同様に発表させる。）

教師は、闇↓カラス（ムムナジロガラス、

ヨーロッパに多い）、黒い服を着た男性を

紹介。黒は太陽の光を吸収するので、冬服

にいいことを伝える。

・白い。

【板書】白い

「黒いが暗いなら、白いはどういえばいい

ですか。」

【板書】暗い↑↓一番明るい

「白は、色の中で一番明るい色なのです。

白いものには、どんなものがあります

か。」（略）

白い服を着た女性（光を反射するので夏

服にいい）↓白いカラス（平和の象徴、ノ

アの箱船で水が引いたことを知らせてくれ

た）↓映画「告白」（白には打ち明けると

いう意味がある）

【板書】赤い 白い 黒い □い □い

「他に□に当てはまる色はありますか。」

・青い。

「青いものには、どんなものがあります

か。」（略）

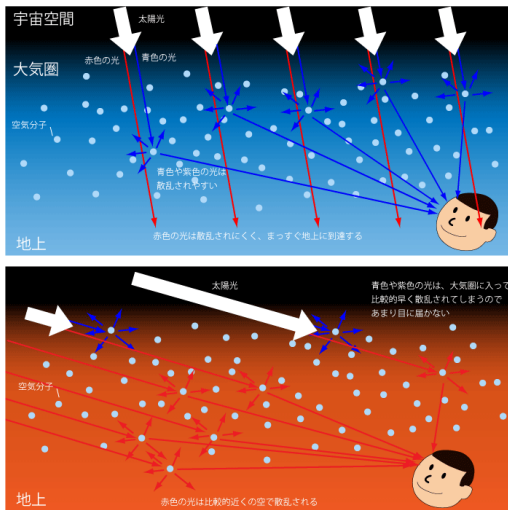
ジンズ（へびよけに使われた）↓青い

空と青い海↓緑の青信号（緑も青と言うこ

とが多い）。

「なぜ、空の色は青いのでしょうか。」

（言える子に発表。）



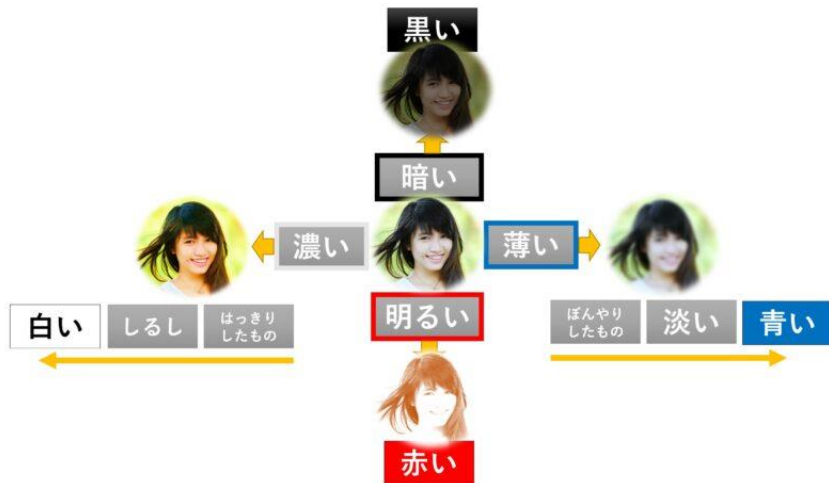
「太陽光の中の青色の光が、空気分子で

散乱することで、空は青く見えるのです。

一方、赤い光は散乱されにくく、まっすぐ

地上に到達します。」（夕焼けが赤く見え

る理由も右の図で説明。）



【板書】□い
 「他にありませんか。」
 赤い・黒い・白い・青いしかないと告げる。

「なぜ、この四色しか、「くい」と言えないのでしょうか。」
 自由に発表後。

「実は縄文時代ぐらいの古代の人が認識できる色が、この4つだったと言われています。長い間、使われてきた色だからという使われ方が生まれたのです。」
 「あなたは、どんな色が好きですか。」
 と問うて、授業を終了する。

ピンクい

20代の栄養教諭と、「□い」には赤・青・白・黒しか入らないという話になったときに、「ピンクいって言いますけどね。」
 と言ったのである。早速、ネットで調べてみ。

すると国語辞典編集者の飯間浩明氏が書かれている「分け入っても分け入っても日本語」(2017.8.)という連載に、「ピンクい」というタイトルがあった。

NHKのラジオ番組に出演したとき、「『ピンクい』は聞いたことがないが、そのうち使われるようになるかも」と話したら、「『ピンクい』、使ってます」というリスナーからの情報が寄せられました。宮城の病院で、事務の人が「あのピンクいと

こ(ソファ)で話しましょうか」と言ったら、福井の和菓子屋さんで「ピンクいのですか」と言われた、「沖縄在住だが使っている」などなど。

ある先生は、大学生に毎年「ピンクい」を使うかどうかを質問しており、「年々増加している」「『書くのも可』の人が増えている」という結果を得ているとのこと。

私は不勉強でした。色名の形容詞化は現に進行中のようです。

二〇一七年に書かれている記事ですから、六年後の今なら、もっと「ピンクい」を使っている人が増えているだろう。

この情報(ネタ)、色の授業に追加することにした。

【学力研Z.o.o.m例会

12月17日(日)午後2時〜3時】

毎月一回、Z.o.o.mによる例会を開いています。学力研会員なら参加無料です。

ミーティングID…6930706442
 パスワード…653359

(今回は、鈴木基久先生が、「国語・説明文新教材の扱い方」について話されます。)

また、近況の交流もしています。ぜひご参加ください。

素材研究③

学力研常任委員 深沢 英雄

④ 専門家から学ぶ

本を読んでも分からないことがあります。分からないことがあれば専門家に訊くことが一番です。

参勤交代の授業の教材研究の時を例に説明してみます。現在使用している日本文教版の教科書に参勤交代が大きくとりあげられています。それまでは教科書の一部に資料があるだけでした。

これまでは、加賀藩の参勤交代の絵図がよく掲載されていましたら、日本文教出版に、鳥取藩が例としてあがっていました。ネットで、調べてみると、「鳥取藩の参勤交代」という鳥取県が発行し、鳥取県立博物館の方が書かれたブックレットを見つけました。授業の素材研究にはびつたりの本

です。読んでいくといろいろな疑問がわいてきました。疑問を解決するために、直接手紙を書いて、訪問し話を聞くことができないかと問い合わせをしました。私の申し出を快諾してくださり、あらかじめ質問項目をメールで送り、鳥取博物館に行きました。学芸員の方はとても丁寧に質問に答えていただき二時間があっという間にすぎしまいました。

忙しい、現場で実践されている先生方に直接行く時間はないと思います。手紙で返信をもらう、今ならネットで回答をもらうということも可能です。直接専門の方に質問をすることが、素材研究が深まります。

五、本質をつかむために最新の研究を知ること！

素材研究をしていく中で何をつかみたいといつも考えているかというところ、「本質」です。「参勤交代とは何か」ということです。それがはっきりとすれば、授業で「何を教えないといけないか」という核ができます。その核を掴むのに時間がかかります。

まずは、参勤交代についての私自身の既習知識を考えてみました。自分は何を知っていて、何を知らないのかははっきりさせるために、ノートに書きあげてみました。

参勤交代

- ・ 家光からはじまった
- ・ 一年交代で江戸と自分の藩を往復する
- ・ 妻子は江戸にいる
- ・ 大名行列がくると「下にー。下にー。」と声がかかり土下座をしないといけない。

・ 行列が長い

・ 整然とならんでいる 等々

この既習知識を元に、素材研究はスタートです。既習知識が間違っている場合も多いのです。また、表面的な理解にとどまっていることもあります。

子どもたちに何を教えるのか、何を育てるのか。何を伝えるのか。

- ・ 参勤交代から江戸時代をとらえる。
 - ・ 参勤交代のねらいをとらえる
 - ・ 参勤交代の内容を知る
 - ・ 参勤交代は何のために学習するか
 - ・ 社会科（歴史）に興味・関心を持つ
 - ・ 自分で学習内容を追究する子に育てる
- という全体像をもちながら、素材研究に入っていきます。

指導要領などにはどう書いているか？
社会的事象の歴史的な見方・考え方
(歴史的分野)

社会的事象を時期、推移などに着目して捉え類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付ける

(2) 我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文

化遺産を理解すること。

参勤交代については、

(キ) 江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解すること。

一般的に参勤交代はどうとらえられているかといえますと、

「妻子を人質に取り、経済力を削ぐことで、幕府に対する反乱を起こさせないようにすること」が、参勤交代の目的とされてきました。江戸と領地を行き来して暮らすことは、大名にとって大きな経済的負担になります。また、妻子を江戸に残したままでは、幕府に逆らうことも難しいとこれまでは言われていました。「大名窮乏化」説です。しかし、以前からこの説は否定されています。

一九八三年の東大の大学入試問題には、「参勤交代が、大名の財政に大きな負担となり、その軍事力を低下させる役割を果たしたこと、反面、都市や交通が発展する一因となったことは、しばしば指摘されることろである。しかし、これは、参勤交代の制

度がもたらした結果であって、この制度が設けられた理由とは考えられない。どうして幕府は、この制度を設けたのか。戦国末期以来の政治や社会の動きを念頭において、150字(句読点も一字に数える)以内で説明せよ。とあります。

参勤交代は武家政権の基本原則みたいなものです。源頼朝が鎌倉を本拠地に定めると、これに従った武士御家人たちは鎌倉に各々屋敷を構えます。一方で、彼らは地方に所領を持っています。彼らは、鎌倉殿に仕える一方で、自分の所領も治めなくてはなりませんから、地元と鎌倉との二重生活になります。各地の武士たちが「奉公」のために、交替で政権所在地に赴くという行動は、遡ると、平安時代の「大番役」に行き着きます。参勤交代や大名行列は、武家政権の中に最初から組み込まれ、脈々と受け継がれたものです。参勤交代は「主従関係の確認」が目的だったという説が有力です。わざわざ江戸に出向くという行為が幕府に対する忠誠を示していたとされています。移動や江戸での滞在に大金が必要となったことで、結果的に各藩の財政が厳し

くなり、軍事力を低下させるのにつながっただけで、それ自体が目的ではなかったと考えられています。日本史の教員のなかでは、参勤交代の目的は「大名窮乏化」でないことは、もうかなり昔から「常識」だそうですね。しかし、小学校の教師用指導書には、まだこの考えがのっています。



「藩のお金を使わせるため、大名行列を命じた」と板書の例にあります。

授業流れと発問をわいている欄には

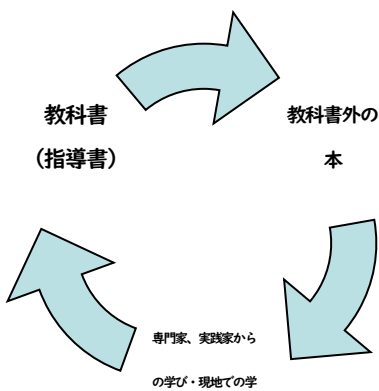
- 教科書 P.134 ①と②をもとに大名行列の問題点について調べる。(20分)
- ①教科書の地図とグラフから、大名行列は何日ぐらいかかると、どのくらいお金がかかったかと思えますか。
 - ②鳥取藩は22日かかっている。東北や九州の各藩はどのくらいかかったかな。
 - ③それはどの時間をかけて、次の宿場町へ移動しているね。
 - ④なぜ、幕府は大名行列を命じたのかな。
 - ⑤藩のお金を使わせるため、江戸に住ませ、幕府に連らえないようにするためかな。
- ・教科書 P.134 の①②をもとに、大名行列の様子と問題点に気づかせる。
- ・大名行列を命じられた藩にとって、困った点は何だったかについて気づきをノートに書かせる。
- ・大名行列のお陰で、宿場町が賑わい、人足や馬の使用で、潤ったことを補説する。

教師の発問「なぜ、幕府は大名行列を命じたのかな」この発問には問題があります。「命じた」とありますが、これをどう解釈すればいいのでしょうか。それに対して、子どもの発言例として、「藩のお金を使わせるため。江戸に住ませ、幕府に逆らえないようにするためかな。」と「大名窮乏化」説にもなっています。

素材研究は、「教科書(指導書)」「教科書外の本」「専門家・実践家・現地での学び」の3つを段階的にするのでなく、行ったりきたり、戻ったりしながら、広がり・深まっていきます。この関係は、「素材研究」「教材研究」「指導法研究」の3つでもいえることです。

素材研究をしている途中で、

「こんな風に教えたら子どもは分かりやすいのではないか」という指導法のアイデアが浮かんだりします。頭の中をぐるぐるどめぐっていきます。この行ったり来たりを「楽しむ」ことが素材研究の醍醐味です。子どもの、「分かった。」「おもしろい。」「もっと知りたい」という声や笑顔を思い浮かべながら、調べることは、教師のなにより「生きがい」だと思います。何度もやり直したり、失敗することも次への糧になります。



学力研 第17期 先生のための学校・オンライン・三回目 報告

李 詩 愛

小学校教師は、自分が得意じゃない分野もすべて教えないといけない。自分なりの研究や工夫が必要。それが教師たる所以。追究こそが教師の尊厳であり、生き様であると久保校長の熱い挨拶から始まりました。

【講座A】

竹田有希「どの子も伸ばす計算指導」

計算指導を学級経営の一つの柱として大切にしている。基礎基本の定着のために、読み上げ計算や百マス計算に取り組んでいる。「昨日の自分に勝つ！」を合言葉に毎日続けて行っている。

百マス計算では、「①自己肯定感を高めることができる。②学力格差を埋めることができる。③個別の課題を見つけることができる。」というよさがある。

この取り組みを通して、「みんなのできる喜びを味わうことができる。努力が成果に比例する。どの子にも確かな計算力をつけることができる。できる自信へつなが

る。それが算数だけでなく、全体のことががんばれるようになる。」ということが見られた。

《受講者の感想》

・ 計算を学級経営にもつながるように意識をされていることがすてきだと感じました。一人ひとりの変容に合わせて、声をかけた賞状を渡したりして子どもたちの嬉しさが写真から伝わってきました。ありがとうございました。

・ 計算の取り組みによる伸びが子どもたちの他の活動にも波及して、学級の自治に繋がっているのがすばらしいと思いました。
・ 百マス計算やりたいと思います。学級経営参考になりました。自分も輝き、みんなの輝く素敵です。そんなクラスになるように今から頑張りたいと思いました。

【講座B】

鈴木基久「二年「どろどろ園のじゅうい」

説明文学習で大切にしていること

① この人(筆者)は何を伝えたかったのか？

・ くり返し学習

・ 作文で使う

・ 学習用語を使えるようになる

いちばん伝えたいことは何かを考える

こと(要旨の把握)は低学年でも必要

② どのように伝えているか

既習教材と比較して読み、相違点と共通点を見つめる。

《書かれ方の共通点》

・ 「はじめ・中・おわり」の構成

・ 時系列に書かれている

③ 考えの形成

三段落構成で感想文を書く。

《受講者の感想》

・ 説明文で「作者が何を伝えたかったか」という発問で児童に問うたことがなかったの
で、「馬のおもちゃの作り方」からやってみます。

・ 子どもたちにどのような「準備」を与えておくことで、活動のめあてに達成させるように導いておられることや、評価のポイントがとてもよくわかりました。

・低学年であつても、筆者の伝えたいことをしつかり捉えさせようとスモールステップで取り組んでおられるので参考になりました。

【講座C】

福島尚「どの子もキラキラ輝く学級を目指して〜つなぐ『想い』による現状打破〜」

④ 四月と現在の学級の比較

・年度初めに行っていた取り組みは継続、進化しているか。

・係活動

・学級が変化、成長しているか。

大切にしてきたことは、子供たちの想いがつながること。

① クラス目標の具体化で想いがつながる

子供たちのクラス目標に対する意識を高める。

② クラスの想いと意識の進化

クラスのとよところ見つけ。自分たちのことを細かくふり返る。

③ 仲間とつながる実感でみんなキラキラ

その日の友達の良いところを発表。自分のことを見てくれる安心感が生まれる。

④ 学級会でクラスが進化する

話し合う理由や目的だけでなく、想いを明確にする。

⑤ 集会で想いがつながる

教師も子供もどのような力をつけたいのかゴールをイメージしておくことが重要。

⑥ 想いがつなぐると子どももクラスも成長する

日々の中で教師と子どもの想いをどうにつなげていくか考え取り組むことが大切である。

《受講者の感想》

・自分のクラスは係活動が停滞していて、今のお話を聞いてもっと自分が目的を明確化して、計画的に進めていかないといけないなど感じました。後期が始まってもう1か月くらい経ってしまったので、今後子どもたちにも働きかけていきたいと思えます。

・学年の初めの様子と今の様子をふりかえり比較し、年間を通じて取り組みを継続する大切さを教えていただきました。ありがとうございました。

・クラスづくりの報告、福島先生の丁寧で「想い」を共有する取組がとても良かった

です。

【講評と講話】久保 齋校長

クラスというのは、自治そのもの。すべての子が輝き、もう一つ高いレベルへとみんな目指すのが自治である。一人の輝きがみんなを明るくする。

《受講者の感想》

・授業づくり、学力づくりで学級づくり、学力の基礎を高めて、みんな伸びるを意識しようと思います。

・久保先生の話では、授業とクラスづくりが二元論ではなく関係し合っていることを意識して取り組むことの大切さが語られ、考えさせられました。

・自分のクラスの自治がどうなのかをふりかえることができました。久保先生の言葉にあった自治の意味や授業づくりの中で自治を育てていること、みんなで伸びていくことのたいせつさにとても共感しました。

・自治の意識に目覚めたときに子どもは輝く！とはまさしくその通りだと思いました。学力を高めることも最終的には自治を高めることにつながっていることを私自身意識して今後取り組んでいきます。

◇学力研最新情報 岸本ひとみ

9月からピンチヒッターとして、1年生の担任をしています。10月の運動会、11月の音楽会と行事も順調に終わりました。学習も進度がやや遅れ気味ながら、何とか進んできています。

●ボール運動となわとびが衝撃

運動会が終わったので、クラス単独での体育がやつと始まりました。ブリッジや前転、後転は、まづまづできました。

びっくりしたのは、ドッジボールでした。ルールを覚えるのに四苦八苦。そして、ソフトバレーボールを使っているのに、キャッチできない子どもが、いっぱいいたのです。

そして、縄跳び。縄がうまく回せない、連続で跳べない、などなど。一番衝撃的だったのは、縄がうまく結べないことでした。

●経験していないことが原因か

あわてて、地域の幼稚園さんにご確認してみたら、コロナ禍であまり外遊びや集団遊びはしていません

ったとのことでした。もちろん、縄跳びも、みんなでそろってしたことにはなかったとのこと。

これまでは、クラスに一人や二人は、あやとびや交差とび、二重とびができる子どもがいて、その子を先生役にして、どんどん上手になつていくのを、そばでサポートしてあげればよかったのですが、今年はそのような状況ではありません。

これまでの縄跳びカリキュラムを大幅に組み替えて、3月までには、全員一回旋一跳躍で連続20回以上を目標にすることにしました。

●コロナ禍の3年間は大きい

3才から5才になる間が、コロナ禍だった子どもたちが今年の1年生。幼稚園や保育園でも、集団遊びや、外遊びに制限があった3年間だったのだから、この実態は仕方がないと思います。

あちこちの学校で、これまでとは勝手の違う子どもたちを相手にいろいろ工夫がされているのだらうと、あらためて感じました。

◇事務局だより 岡本 美穂

先日お世話になっていている先生の学習会に参加しました。そこで話題になったことは、「おたずね」の大切さでした。初任者にも朝の会での話の後に必ず「おたずねはありませんか。」と聞くことを大事にするように伝えていくとのことでした。私も学力研に入って一七年たちますが、いまだに電話して「どう思いますか」と「おたずね」したり、お会いしたときにアドバイスいただいています。ぜひ、冬の学習会に来ていただき「おたずね」たくさんしてください。

■冬の学習会開催決定！

久しぶりの対面講座です。

12月26日(火) 残席わずかです。

10時〜16時

定員35名

会場:エルおおさか

久保齋

「教師教育の復権 庶民のため

の、庶民の教師による 庶民のための教育改革を」

他・・・このようなテーマの内容を聞くことができます。「学力テストから子どもたちのつまづきについて考える」

「習熟を意識した算数授業の組み立て方」等

テーマ 「つまづきを科学する」参加費:2000円

●第17期先生のための学校

●次回は12月16日(土)

https://www.kokuchpro.com/ev
ent/0abb330e41278e44766fa35831442134/

●1月20日(土)

https://www.kokuchpro.com/ev
ent/ab3a6ab09e92acdb8a0af04775da00c60/

●2月10日(土)

https://www.kokuchpro.com/ev
ent/8adf016597b91ec5c4514c8a54e236c3/

17年目を迎える「先生のための学校」です。17年続くには意味があります。ぜひ、ご参加ください。お待ちしております。

学力研カレンダー



《各地のサークル・部会 2023年 12月 例会、イベント》

どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

12/

- 21 (木) 春日井学力研 18時半～ レディヤン春日井(JR勝川駅) 山口 080-6904-1697
23 (土) 大阪教育サークルはやし 午後 エルおおさか 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp
(日) 伊丹学力研 18時半～ ※阪急武庫之荘駅近く 前田 090-9715-3830

オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

下記サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等のご連絡下さい。

- みなみ学力研 9時半～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp
- いろえんぴつ (加印) 18時半～ 稲美町ふれあい交流館 岸本 090-9117-6330
- 神奈川学力研 10時～12時 県民サポートセンター704号室 (横浜駅西口) 湯浅 090-1104-4667
- 持ち方書き方研究会 ライン会議で行います。日時や参加のしかたはご連絡を 前田 090-9715-3830

《全国キャラバン等 今後の予定》

- 学力研・冬の学習会 12月26日(火) 10時～16時

講演 「教師の復権 庶民のための、庶民の教師による 庶民のための教育改革を」久保齋
他

- 学力研・先生のための学校【全6回】

9月 9日(土) 13時半～15時半【済】 10月14日(土) 13時半～15時半【済】

11月11日(土) 13時半～15時半【済】 12月16日(土) 13時半～15時半

2024年

1月20日(土) 13時半～15時半 2月10日(土) 13時半～15時

- 1年生講座

24年 1月27日(土)

(詳細はメルマガ、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-426-5133)

ご意見・ご感想は下記まで

荒井 賢一 E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp

李 詩愛 E-mail iwamotoshie@gmail.com

堀井 克也 E-mail katsuya4k1h9@gmail.com